

WILD isn't it !



Vol.1

October 2022

Project **WILD**

NewsLetter

WILD isn't it ! に込めたおもい

地球上には私たち人間含めていろいろな生きもの（生命）が存在しています。生きものは四季折々のいろいろな動きや表情で魅了してくれます。美しくもあり、儂くもあり、時には驚くことや不思議なことを教えてくれる生きもののすばらしさを未来に向けて繋げていけるよう、発信をしてみたいです。

～Project WILD は、自然や環境のために行動できる人材育成を大切にしています～

Happy Halloween ♪

WILD LIFE Short Story

生きもの小話

昨年からはじめた生きもの小話、皆さまお楽しみいただいていますでしょうか。生きものとの出逢いには、ハプニングや笑い、愛らしさや悲しさ・・・様々なドラマが生まれます。何度読み返してもほっこりしていただけるかと思います。

Project WILD Conference2022 in North Carolina

5月23日～27日で開催された国際コーディネーター会議に初参加させていただきました。日本から飛行機で16時間弱のアシュビル地域空港から56km程離れたNC州西部アパラチア山脈にあるピスガ国有林の中に佇む美しいローガン湖リトリートセンターが会議の舞台でした。

会議期間中にUrban Bear Management in Ashevilleへ訪問した時の事。そこはNC州アシュビル市とその周辺に生息する野生クマ(Black Bear)の繁殖やサイズの研究、クマの個体数を管理している所でした。

訪問したタイミングが、ちょうどGPSを備えた無線首輪の付け替えの時でした。クマの体重、年齢、全身状態などを記録していたスタッフから話を聞くことができました。

目の前には雌のクマが一時的に鎮静され眠らされていました。

時折「ブゥ～～ハァ～～」という深くて大きな呼吸音と大きく膨らむ肺には強い生命力を感じてドキドキしました。クマの体毛は、束子のようなしっかりとした毛質感でまだらに生えていました。体臭は獣臭がするわけでもなく、あまり感じませんでした。

この雌クマの記録作業は初めてではないことや、麻酔が切れると助けを借りることなく自ら森の中へ帰る賢さがあるそうです。

野生のクマを目の前にして、研究と管理をしている方々の動きや話、捕獲トラップ缶を見せていただいたことが、まさに人と共棲しているUrban Bearそのものだと。

その現場のリアルな空気を肌で感じる事ができたことは忘れることのない、すばらしい経験でした。

何とも言えない緊張感が、その場を包んでいましたが、私は…親近感を感じて笑みまでこぼれてしまいました。玉熊だけに…

JUST NOW !

Project WILD JAPAN 事務局デスク

テキスト改訂「新陸上動物編」誕生に向けて、ひたすら手を動かしています。

12月の事務局主催の講習会で、参加者の皆さまにご紹介ができるように、小冊子の発行も同時に進めています。

楽しみにお待ちしております。まもなく・・・！です。



Urban Bear Management in Asheville